

① 投票率アップのための取組について

「とうけい ながよ」令和 3 年度版によると、令和 2 年度までに本町で行われた国政選挙・地方選挙の多くで、投票率が 10～15 年前と比較して 10%前後も下がっています。投票率の低下は本町だけで顕著な訳ではなく全国的な傾向ではありますが、選挙は主権者である国民が自らの意思で代表者を選ぶことで民意を政治に反映できる最も重要かつ貴重な機会ですので、より多くの町民が求めていること・望んでいることを知り町政に反映するためにも、本町独自に選挙の投票率を上げる取組をすべきと考えますので、関連して以下の質問をいたします。

- (1) 投票率を上げる必要性についてどう考えているか。また、現状で何か取り組んでいることはあるか。
- (2) 候補者を選ぶ上で重要かつ公平な材料が選挙公報だが、総務省選挙課が選挙公報は全戸配布を原則としているのに対し、本町の町議選・町長選では新聞折込でしか家庭への配布が行われていない。選挙期間の短さによるところもあるが、新聞購読者が年々減少し 5 世帯のうち 3 世帯ほどの割合となっていることも踏まえると、何らかの方法で全戸配布すべきと思うがどうか。また、即時性の面から、町ホームページへの掲載もすべきと考えるがどうか。
- (3) 投票日当日の町内 9 カ所の投票所の配置に偏りがあるように思うが、どのような基準を基に設定しているのか。
- (4) 期日前投票ができる投票所が役場の 1 カ所だけなのは少ない。増設するか、またはこの 1 カ所をイオンタウン長与のような、町民が日常的に訪れる場所にした方がいいのではないか。
- (5) 本町は中山間地域や交通の便の悪い場所も少なくないこと、高齢化も進んでいることに鑑み、選挙執行経費基準法に基づく国費や特別交付税を活用し、移動投票所を導入することはできないか。

② 三彩橋付近の護岸の亀裂の影響について

今年 1 月上旬、三彩橋交差点付近の護岸に約 20m にも渡る亀裂が突然発生しましたが、所管する県によると、その原因は当該箇所底部の河床が水流で削られ、老朽化している護岸表面のコンクリートが自重で下に落ちたためと考えられるとのことでした。河川管理者は県で、上を走る道路は国道なので、いずれも所管は町ではありませんが、復旧工事のために付近住民の生活に大きな影響があると思われ、また、護岸は長与川の大部分で同様の構造と思われるため不安に感じている方もおりますので、以下質問いたします。

- (1) 県河川課によると、当該箇所の川の水を抜かずに復旧工事を行うのはかなり困難とのことだった。当該箇所は第一浄水場の取水場所であるが、取水口変更・移動など当該護岸復旧工事にともない発生する費用はすべて県の負担とのことなので、早期に工事を完了させることを最優先に、可能な限り協力をすべきだと思うが、県との協議の状況はどうなっているか。
- (2) 昨年 12 月定例会で定林橋側道橋上部工工事の契約についての議案が可決されたが、図面によると、両岸とも護岸上部に近接して太さ 40 cm の鋼管杭を複数本打ち込むようになっている。施工には相当の振動・衝撃が伴われると思うが、老朽化した護岸に破損などの影響が出ることは考えられないか。事前の調査や施工方法の再検討などは必要ないか。
- (3) 前述の通り、長与川の河川管理者は県であるが、川沿いの道路を利用する多くは町民でもあるので、護岸が老朽化しているということであれば、今後同様の破損などで事故・人的被害が起きないためにも、護岸の点検や補修を県に要望すべきと思うがどうか。